



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 39

CODI 会合と地球地図への影響

コンボ・ムウェロ
ケニア測量局局長



コンボ・ムウェロ局長

概要

CODI-IV会合は2005年4月25日～28日、エチオピア・アディスアベバの国連アフリカ経済委員会本部において開催されました。本会合に先立ち2005年4月23日～24日にワークショップが開催され、CODI-IVのアジェンダの疑問点が説明・再検討されました。また、展示は本会合の大きな特徴でした。本会合は、退任する議長でCODI-IIIを統括したウガンダにより開会され、新体制の選挙が行われ以下のとおりとなりました。

役割	委員長	次席
CODI-IV	チュニジア	第一副委員長 - 南アフリカ
		第二副委員長 - ルワンダ
		第一書記 - ガーナ
		第二書記 - カメルーン
CODI-Geo 分科会	スーダン	副委員長 - スワジランド
		書記 - エチオピア
統計分科会	タンザニア	副委員長 - チュニジア 書記 - ガーナ
情報通信 (ICT) 分科会	ナイジェリア	副委員長 - ナイジェリア 書記 - タンザニア

CODI-IVのテーマは「経済的資源としての情報」

でした。続いて商品やサービスの生産の戦略的要因および開発と貧困軽減のための道具としての情報を検討するために、多くのセッションが設けられました。

会合は本会合および技術セッションとの両方に分かれて進行されました。最後に CODI-IVは以下の全体決議と勧告を採択しました。

- ・「開発のための知識、図書館および情報サービス」に関する新しい分科会 CODI-KLIS の立ち上げ。新しい本分科会は以下について担当します。
- ・図書館および情報サービスの分野における地域・準地域の政策方面の提案。
- ・図書館および情報サービスの分野における参加国の国家目標の確認および国レベルでの進捗評価の支援。

勧告

世界規模の経済は情報および知識をもとにする経済への過渡期であることを認識し、参加国は、SDI、統計および図書館など、情報開発のすべての分野を統合する NICI（国家情報通信基盤）戦略を整備し、それらを国家開発計画および貧困の軽減戦略の完全な構成要素として組み込むよう勧告されました。

国際的なパートナーは、合意による勧告に基づき参加国による実施を支援し、情報および ICT 促進を、貧困の軽減および成長の促進の手段として、アフリカ諸国への開発支援の主要な要素とすることになります。

本会合は、2003年に開催された前回の CODI- III 会合以降になされた進展を見直す機会でした。したがって、各分科会はそれぞれ平行して行われ、その中で以下の決議がなされました。

ICT 分科会

1) CODI 勧告の実施

CODI 勧告の実施の進捗調査の重要性を認識し、

- a) 参加各国は CODI 会合中に合意された勧告の実施を調整・調査するために国別に委員会を立ち上げるよう要求されました。
- b) ECA は合意された課題について、参加国との間にフォローアップのメカニズムを構築することになりました。

2) E- エコノミー整備実現のための環境の創生

CODI は参加国が以下について行うことを支持しました。

- ・ 基盤整備および e- コマース・イニシアティブへの投資を拡大する。
- ・ すべての関係者を関与させるより参加型の政策過程を奨励する。
- ・ アフリカの民間部門の競争力を高め、一般大衆の要求に応えるために、企業向けインターネット電話 (VOIP)、ICT で実現される輸出サービスおよびモバイル・コマースなど、創造的で革新的な技術やビジネス・モデルを活用する。
- ・ 電気通信料金を軽減しつつ、e- エコノミーの基礎としての基盤の整備・拡大の努力を増大する。
- ・ 必要とされる ICT の熟練労働者数を確保するために中核的機関を支援する。

CODI は ECA が以下について着手するよう勧告しました。

- ・ e- コマースの課題や機会について意識を高めるよう参加国を支援する。

- ・ 実現可能な環境を作るための媒体としての e- 戦略の作成・整備において、組織および個人の能力強化の分野について参加国への支援を拡大する。
- ・ 情報社会指標によって行われる進捗の調査・評価の分野において、参加国の能力を向上させるためにイニシアティブの実施を支援する。

無料オープンソース・ソフトウェア (FOSS) の利用

参加国は以下について奨励される。

- ・ FOSS を、市民への費用効果の高い、容易に適応・調整可能なサービスの提供を強化するための戦略的オプションと考える。
- ・ ICT 産業化イニシアティブの創設・実施において FOSS を考慮する。
- ・ 現在では基盤の一部と考えられているコンピュータ OS のオープン・スタンダードおよび互換性を確保する。

CODI-GEO

勧告：

- a) NSDI や国家基盤の核となるデータの構成要素として場所指定（住所）を含めること。
- b) アフリカのためのアフリカの地図作成 (MAFA) に関するダーバン・ステートメントの採択。
- c) さらに、参加国は特に自国の NMA を通して以下を行うことを奨励しました。
- d) MAFA に関するダーバン・ステートメントの勧告を実施すること、および
- e) SALB プロジェクトを支援し、必要とされるデータおよび情報を提供すること。
- f) アフリカの政府機関は、最大限の利益を確保するために SDI/NICI 作業の一部として、アフリカ資源管理 (ARM) 集合システムに参加すること。
- g) AFREF および ARM 集合システムに基づき、参加国の SDI イニシアティブを支援し、地上参照基準として利用できるアフリカのためのモザイク作成の可能性を追求すること。

第8回国連米州地域地図会議 (UNRCCA)

ニューヨーク、2005年6月27日～7月1日

ISCGM テイラー委員長、ピータ・ホランド副委員長および丸山弘通事務局長が地球地図を代表しニューヨークにおける本会合に参加しました。テイラー教授、丸山、佐々木および岡谷が作成した「地球地図と空間データ基盤：整備と地理空間データの普及のための挑戦」と題する発表が本会合で行われ、地球地図によってなされた大きな進展について報告されました。この発表は参加者の良い評判を得、本会合のプロシーディングの一部として配布される予定です。地球地図を支援する決議が本会合で可決されました。また、2006年9月、タイ・バンコクにおけるUNRCCAPに併せて、ISCGM、ICA およびPCGIAPの共催で特別ワークショップを開催することについて国連のラリビ博士と協議しました。大規模災害の軽減と持続可能な開発の達成のための地理情報の利用に関する本ワークショップの開

催について、基本的に合意に達しました。

UNRCCA はラテンアメリカの多くの国々や他の国々および国際機関の代表が参加しました。



変化する世界への地図作成の取り組み

第22回国際地図学会議

ア コルニャ・スペイン、2005年7月11日～16日

この重要な会議には1600名を超える参加がありました。国際地図学会（ICA）は地球地図にとって大切なパートナーで、テイラー委員長はISCGMを代表し本会合に参加しました。テイラー委員長は、技術プログラムにおいて「地球地図の完成に向けた進展：あらたな国際図」と題する発表を行いました。また、委員長はICAミラン・コネチニー会長およびビクトル・ティクノフ副会長と、2006年にバンコクで開催される次回UNRCCAP会議において、ICAとISCGMが協

力し、自然災害の軽減に関する合同ワークショップを開催することについて話し合いを持ちました。

ICA 会議はめざましい成功を収め、組織委員会のすばらしい仕事振りは賞賛に値します。

ジ・エクスチェンジ

オードナンス・サーベイ、サザンプトン、2005年7月3日～6日

テイラー委員長は ISCGM を代表し本会合に参加しました。ジ・エクスチェンジは 2003 年の重要なケンブリッジ会議のフォローアップで、世界中の国家地図作成機関の長が一同に会しました。ケンブリッジ会議は現在に至るまで 4 年ごとに開催されていますが、代表団の要請により 2 年ごとの会合により補完されることになりました。

本会合のハイライトのひとつにエドワード王子（ウェセックス伯）の臨席がありました。王子は、会議の開会式の挨拶で、他の王室の多くの人々と同じように地図や地図作成に魅了されていると述べました。王子は挨拶のなかで、「本会議は、このハイテクでハイペースが加速する世界で、あなた方が地図作成者として今日直面する課題にまさに遭遇していることです。世界は、コミュニケーションという観点では小さくなりつつあるかもしれませんが、実際に顔を会わせて座っているほどよいものはありません。」とコメントしました。

会議期間中にテイラー教授は Intergraph 社長のプリーサ・プルサニ氏と会う機会があり、Intergraph の ISCGM に対する寛大なグラント・プログラムの詳細について、EuroGeographics 理事長ニック・ランド博士とともに話し合いました。

Ordnance Survey のバネッサ・ローレンス局長とそのスタッフは、第一級の会合開催を成し遂げるなど見事な仕事ぶりでした。



テイラー教授とプルサニ氏

第8回 UNRCCA、変化する世界への地図作成の取り組み、およびジ・エクスチェンジの3記事は ISCGM 委員長 D. R. フレーザー・テイラー教授が執筆しました。

事務局から

地球地図技術ノート ー 第二回：水系レイヤの構成と特性 ー

前号に引き続き、事務局に到着しているデータの中に多く見出される問題の解説をしていきます。2回目となる今回は、水系レイヤの構成とよくある間違いについて扱います。また、水系レイヤは境界レイヤとの関係が重要な地物をいくつか含むため、境界レイヤとの関係を考慮しながら解説します。

＜水系レイヤの構成＞

水系レイヤはライン、ポリゴン、ポイントで構成され、それぞれが含む地物は以下の通りです。

ライン： ①水路（幅が1km未満のもの）②ダム／堰（長さが1km以上のもの）③導水管／運河／用水路／水圧管

ポリゴン： ①内水（湖沼、幅が1km以上の水路）

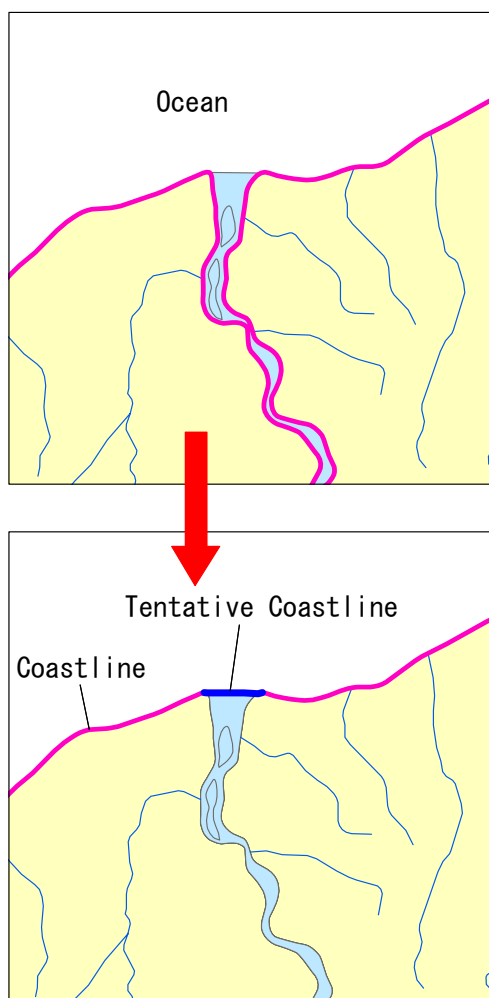
ポイント： ①ダム／堰（長さが1km未満のもの）

②島（面積が1k m²未満の内水の島） ③泉／
ウオーターホール

<よくある間違い>

河口部における海岸線及び内水ポリゴンの取得方法

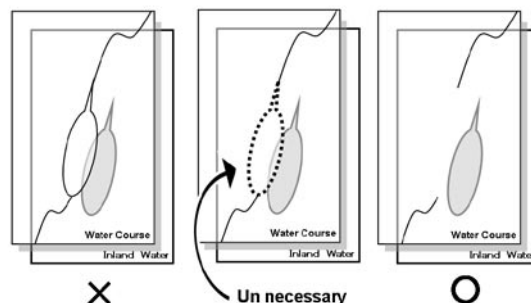
川幅が1km以上の河口部の海岸線及び内水ポリゴンの取得方法について説明します。海岸線は大陸及び島を完全に囲む形で連続的に取得されなければなりません。河口部では海との境目を決める陸地がないため陸地と水部との境界線は引けません。そこで、河口部では川と海の境目に仮のラインを引き海岸線の連続性が失われないようにします。仮の海岸線の属性値は陸地と海との境界線として取得された海岸線と区別するために、正確度カテゴリーACC =3, 存在カテゴリーEXS 3 とします（これは本年4月に開



催された ISCGM12 で決定され、新しい仕様書 ver.1.2 に明記されました）。

一方、内水ポリゴンについては、川幅が1km以上の部分について上記で決定された海岸線からはみ出ないように取得します。また、仮に取得されたものを含む海岸線全体及び国境線によって囲まれる領域は、行政界ポリゴン全体と一致しなければなりませんので、境界レイヤの作成にあたってはこの点について矛盾がないように留意する必要があります。

海岸線は境界レイヤで、内水は水系レイヤに含まれる地物ですが、上述したように双方の関係に気をつけて取得して下さい。



内水面の取得方法

内水面は、水系レイヤにポリゴンとして取得し表現します。内水面の外形をラインデータで取得するのは間違いです。

内水の島の取得方法

川の中州や湖沼内の島といった内水中における陸部（内水の島）の取得方法について、境界レイヤで取得される“海上の島”の取得と対比させながら確認していきます。島はその形態及び取得方法の違いによって次の4つに分けられます：①内水の島で面積1km²以上②内水の島で面積1km²未満③海上の島で面積1km²以上④海上の島で面積1km²未満。

内水の島のケースである①については、内水ポリゴンに陸部を形取った穴をあけるだけです。島のデータは独立には存在しないことになります

が、内水ポリゴンが抜けていることでそこに島や中州があることが図的に分かります。また、②については、水系レイヤの島ポイントで取得します。海上の島のケースである③や④について、②と同様に水系レイヤの島ポイントで取得されるケースが多いですが、これは誤りです。前回掲載しましたように、③については、島の輪郭を海岸

線で取得した上で、それと一致させる形で行政区域ポリゴンを取得し④については行政区域ポイントとして取得して下さい。いずれの場合も島自体の取得は境界レイヤで行いますので、水系レイヤには影響を及ぼしません。

次回は「交通レイヤの構成と特徴」を掲載します。

・第12回 ISCGM 会合決議で述べられたインターグラフの人材育成のためのグラントが開始されました。

詳細は以下を参照してください。

<http://www.intergraph.com/interop/grant.asp>

・ISCGM 事務局では、ワーキング・グループ4によるラスター・レイヤ整備に関するアンケートを地球地図プロジェクト参加国あてに6月の第1週に e-メールまたはファックスと航空便で送付しました。なるべく早く回答していただくようお願いします。

・3カ国 / 地域があらたに地球地図プロジェクトに参加しました（6月27日・東ティモール、7月29日・トリスタン・ダ・クーニャおよび9月9日・チャド）。これによりプロジェクト参加国 / 地域は合計149となります。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2005 年

- ・11月24日、ブルネイ・バンダルスリブガワン
PCGIAP ワークショップ
- ・11月21日～25日、ブルネイ・バンダルスリブガワン
第8回東南アジア測量者会議
- ・12月14日～15日、スイス・ジュネーブ
GEO II

2006 年

- ・9月5日～9日、タイ・バンコク
第17回 UNRCC-AP
- ・11月6日～10日、チリ・サンティアゴ
GSDI9 会議
- ・11月11日、チリ・サンティアゴ
第13回 ISCGM 会合

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org